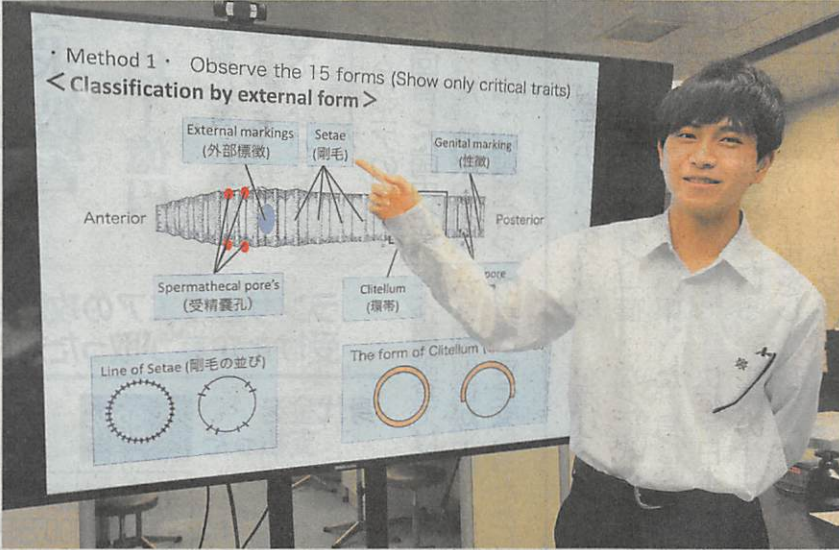


ミミズ研究「準最高賞」

iP-U 全国受講生発表会

宇大で研究、遠藤さん (小山高)

科学技術分野に秀でた人材を育成する宇都宮大の「グローバルサイエンスキャンパス (iP-U)」で学ぶ小山高2年遠藤さん(17)が、本年度全国受講生研究発表会で同大として初めて、最高賞に次ぐ科学技術振興機構理事賞に輝いた。情熱を注ぐミミズの調査研究で新種の可能性がある未記載種を発見し、高く評価された。遠藤さんは「家族や先生、協力してくれた全ての人に感謝したい」と喜んでいる。(佐野恵)



ミミズの生態を説明する遠藤さん=21日午後、宇都宮大

発見個体新種の可能性

グローバルサイエンスキャンパスは、高校生などを対象とした科学技術振興機構の事業。宇都宮大は2015年度に導入し、現在約60人が化学や工学、生物学など各種分野で最先端の知識を学んでいる。

今年で7回目となる発表会は、10月23日～11月15日にかけてオンラインで開かれた。東京大や大阪大など

全国17機関の受講生46人が44件の成果を発表し、うち12件が賞を受けた。最高賞は文部科学大臣賞。

遠藤さんの発表テーマは「栃木県にて採取された大型陸生貧毛類の未記載種」。貧毛類はミミズを指す。

「土を掘ればどこにでもいる」細長い生き物に興味を持ったのは、小学3年生のころ。「面白い動きや体色の違い、地域性の強さ」に夢中となった。もっと生態を学ぼうと、高校1年でiP-Uに所属した。

世界には約5400種、日本には約180種いるとされる。遠藤さんは「四季があり落葉のある日本には、もっと多くの種類が生息しているはず」と仮定し、調査研究に取り組んだ。

昨年8月に日光市内で採取した個体の遺伝子を地道に解析すると、正式に分類学的記載が行われていない未記載種と判明した。指導を担当した松田勝教授(51)は「丁寧な検証が実を結んだ」とねぎらう。

発表会では「ダーウィンも夢中になったミミズの研究。たまたま未記載種を見つけたというが、発表者の地道な研究活動によるもの

でしよう」と評価された。学術誌に論文が掲載されれば新種と認められるという。遠藤さんは「『ニッコウミミズ』と名付けたい」と笑顔。「日本の分類は未完成。調査を進めて完成させたい」と意気込む。

将来の夢は研究者。ミミズのふんは土壌の性質の改善、特殊な筋線維は医療分野での応用も期待できるといい、「生活に還元するような応用的な研究につなげたい」と目標を語った。

下野新聞

2020年(令和2年)11月27日(金曜日)